

東大芦川・ヒノキガタア沢 2016/05/01

メンバー：落合（CL・記録），斎藤（SL），大曾根，飯野

天候：晴れ時々曇り

大芦溪谷ヒュッテ 7：20 入渓点 8：00 薬師滝 10：10 薬師岳 12：40 13：10

日陰沢出合 14：40 大芦溪谷ヒュッテ 16：10

貧雪により今シーズンの雪山は不完全燃焼に終わった、それならば今年も沢だ！と事始めに地元・前日光のヒノキガタア沢に行ってきた。

前日光の大芦川流域には沢登りの対象となる沢は少ないが、ヒノキガタア沢はその中でも数少ない唯一の選択肢のひとつで草履初めに近場のこの沢を選んでみた。

今回は地の利を生かしてダートな林道も軽トラで攻めようと、大芦溪谷ヒュッテから荷台にみんなを乗せて出発したら「林道崩壊の為通行止め！」の看板でいきなり出鼻を挫かれる。

どうやら昨年に関東・東北豪雨の影響で林道が崩れてしまったらしい、止む無く入渓点まで小一時間程度歩くことにするが予想以上に林道の荒れ方が酷く改めて豪雨の爪痕は大きかったと実感した。

林道を歩いていると思いの他支流にも立派な滝が掛かっている所もあり、水量も意外と豊富。

次の課題は実は近所の裏山に転がっているのかもしれないと、周囲を観察しながら入渓点に到着。

ヒノキガタア沢は古峰ヶ原信仰の地としても知られているので、棒滝・ヒノキガタア滝には高巻きの古い残置が設置されていたが、非常に急で修験道の名残を感じることが出来る。

薬師滝は素直に立っている滝でリスも多く直登も可能そうだが、神聖な名前の滝にハーケンをぶち込んで登るくらいならシーズン初めの足慣らしにと左岸の泥壁を高巻いてみたが、コレが意外と渋くて支点に乏しい岩にハーケンとカムを1つずつ決めてランナウトしながら40m程ロープを伸ばした。

たかが8mの滝、されど8mの滝も高巻くと核心に変わる手応えのある泥壁だった。。

踏み跡が無い泥壁は落ち葉が堆積している所も多く、今回も核心は落ち葉の下はスラビーな岩でグズグズだったので肝を冷やした。高巻きは地盤状況が変わり年々悪くなりつつあるので遡行の核心部となるが、その緊張感を愉しんでこそ満足感も増したような気がした。

源頭部は薬師岳に近い沢地形を拾いながら山頂へ、ヤブ漕ぎも無く快適でヤシオツツジが満開の尾根を歩きながら日陰沢を下降した。

日陰沢は特に滝らしい滝もなくガレ沢だったが、尾根下降で乾されるくらいなら読図や沢下降の練習でちょうどいい。

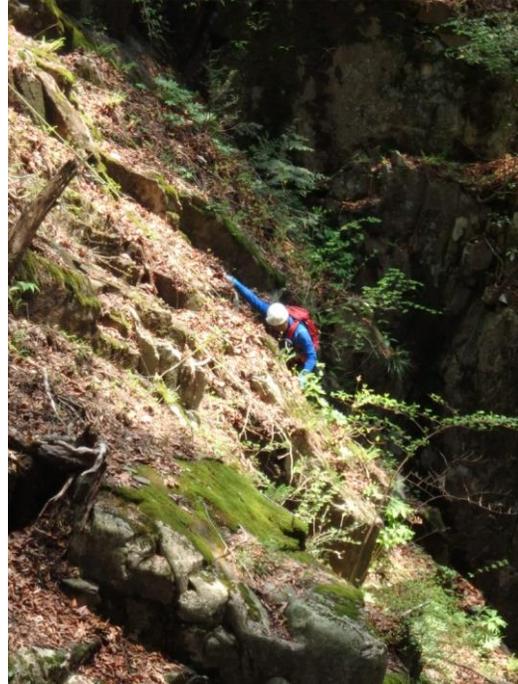
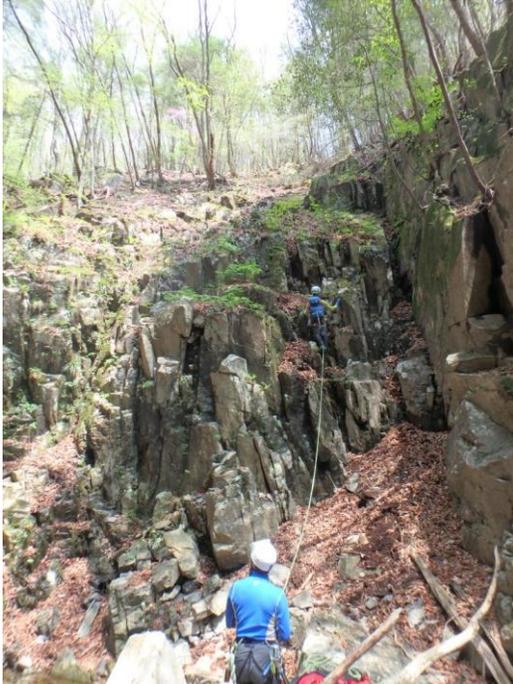
筆者は仕事の忙しさもあって事前情報を全く入手することなく山行に挑んでしまったが（反省）、オンサイト気分を存分に味わえてなかなか楽しく登れた。



棒滝（左）、ヒノキガタア滝（右）水量もありなかなか見栄えがする



高巻きは浮石が多く急な斜面が多いが、積極的にロープを出した



シーズン初めからなかなかの泥壁（体感Ⅳ級）で奮闘



ツメは快適な笹原（左）、ヤシオツツジが満開の山頂にて（右）

昨年の豪雨以降、林道の状況は大きく変わってしまい入渓までのアプローチが延びてしまったのは仕方ないが、昔の残置物は朽ちて高巻きも踏み跡が薄くグズっているのもそれなりの悪さがあり、こういう記録が少ない沢は年々状況が変わりつつある部分は否めない。

情報が飛び交う今の時代、事前情報を拾うのは非常に容易いかもしれないが、渓を取り巻く未知性や探検的要素とは何か？をより深く追求しながら今シーズンも行動範囲を広げて行きたいと思う。